

美の国カレッジにかほキャンパス



「殿様街道と参勤交代」の講師を務めた半田氏

平成23年度、美の国カレッジ秋田地域学講座にかほキャンパスが6月25日(土)からスタートし、延べ約300人が受講しました。

「道の文化史～羽州浜街道をめぐって」というテーマで、羽州浜街道の魅力や街道を利用した参勤交代、街道に伝わる民俗芸能や信仰、そして街道を歩いた松尾芭蕉や菅江真澄について、6講座5名の講師から講話をいただきました。

このうち「殿様街道と参勤交代」の講座では、講師の半田和彦氏が、高校教諭時代に修学旅行で生徒を引率したことを例に挙げるなど、参勤交代の様子をわかりやすく説明されました。

また、7月16日(土)の移動学習では、象潟郷土資料館で講師の齋藤一樹同館学芸員より象潟の景観や鳥海山の説明がありました。三崎公園では一里塚から曾良随行日記碑までの道を歩き、受講者は松尾芭蕉とその弟子、曾良が歩いたであろう道の足跡をたどりました。さらに塩越城跡から熊野神社、欄干橋をめぐり、九十九島での見学では、九十九島の景観が保護されるまでの経緯が説明されました。

受講者からは「松尾芭蕉や菅江真澄に思いをめぐらせて歩くことができた」等の感想が寄せられました。



かつての文人が歩いた足跡をたどる受講者

美の国カレッジあきた城下物語 (現地学習)

7月17日(日)、美の国カレッジ「あきた城下物語」の現地学習が秋田市内で行われ、約60名が参加しました。

歴史作家の土居輝雄氏が講師となり、「秋田藩久保田の城下町を考証」というテーマで、秋田市の通町橋から五丁目橋までを歩きながら久保田城下の通称「外町」の形成について説明がありました。

四丁目橋が跳ね橋だったという話や、旧金子家住宅のような家屋が道沿いにずらりと並んでいた、という話に参加者は驚いていました。旭川の流れを見ながら、久保田城下の歴史に思いを馳せている姿が印象的でした。



旭川と二丁目橋

地域マイスター養成講座スタート

地域の良さを再発見し、地域作りの中心となる指導者を養成する「地域マイスター養成講座」が6月25日（土）の能代キャンパスを皮切りに美郷キャンパス、秋田キャンパスの3地区でスタートしました。

1日目は秋田大学の原義彦准教授が「地域活動のために必要なこと」というテーマで、各地域の市（町）民歌を題材に、地域作りについて一人ひとりができることについて話されました。またNPO法人あきたコアセンターの小西



講師の原准教授（美郷キャンパス）



ワークショップの様子（能代キャンパス）

知子理事長を講師に、「地域の良いところ探し」というテーマで、ワークショップが行われました。参加者は自分の地域の良いところを出し合い、多くの魅力があることを再発見していました。

2日目は実際に地域マイスター養成講座を修了した方が講師となって、次年度に開催される「美の国キッズ&ユース・カレッジ」を企画・運営するために大切なことを、自身の体験談をもとに話されました。

地域マイスター養成講座は全4日、8コマの講座となっています。

美の国れんけいカレッジ「明快!Artゼミ」

秋田県立近代美術館との連携による美の国れんけいカレッジ「明快!Artゼミ」が6月24日（金）から3回にわたって開催されています。

東京大学名誉教授でもあります県立近代美術館の河野元昭館長を講師に迎え、『『國華』と秋田 ～秋田県立近代美術館所蔵品を中心に～』をテーマに、実際の絵画をスライド形式で紹介する講座となっています。

6月24日（金）は『解体新書』の挿絵を描き、秋田蘭画の礎を築いた秋田藩士、小田野直武にスポットを当て、彼の描いた作品を中心に講座が進められました。

西洋画と洋風画のちがいについて、また秋田を訪れていた平賀源内が小田野直武に対して「お供え餅を真上から描いてみなさい」との問いに、直武が三重丸を描いたエピソードや、陰影法と遠近法を使った蓮の絵画等について、さまざまな視点から解説されました。

専門的な内容でありながら、河野館長のわかりやすい切り口とユーモアあふれる語り口に、集まった約70名の受講者は大いに満足した様子で、あっという間の90分と感じたようでした。

7月22日（金）は中国清代の画家、沈南蘋（しん・なんぴん）、8月26日（金）は秋田市出身で明治日本画壇の重鎮、寺崎廣業にスポットを当てた講座が予定されています。



小田野直武筆「不忍池図」



講師の河野館長

「美の国カレッジ情報2011」は、生涯学習センターHP (<http://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>) からカラー版PDFファイルでダウンロードできます。